

其の認識の度たるや加藤清正の虎退治の範圍を出でず軍司令部関係者一同に於ても余りに認識の浅薄なるに一驚を喚せる程なりき

第九章 入營

斯くて朝鮮出身兵は九月より逐次入營せしめらるに至りたるも漸次後退の途を辿りありたる戦況の推移とも關聯し入營後脱營するもの或は鮮外部隊に転属の途次逃亡するもの等頻發し一時は相當の苦慮を要せしも日を經るに従ひ次第に落着きを取り戻し大なる考慮を要せざるに至りしも直接入營業務を担任する部隊側の苦心は普大抵のものにては非ラザリき

一時逃亡者続出せる時代に在りては某部隊の如きは之か防止対策として巡察不寝番の増加潜伏斥候分哨の配置、兵營周囲の鉄柵の補修増強等本末を顛倒せる筈に出でたるものもあり其の苦心の一端を察すると

得べし

入宮に当りては親族縁者の附添ひ、実に夥しく恰も「前市」をなすの盛観を呈したり

又入宮後に在りても面会人は踵を接して至れり

特に母親の如きは毎日宮庭を見渡し得る場所に腰を下し終日吾が愛児の身の上を案じ、続ける者も相当数あり、部隊側の之等面会人に対する應接整理は想像に余りあるものありたり

約二十三萬の壯丁中より現役として入宮せるは僅か四萬五千名（別に海軍兵一萬名）にして他の大部分は補充兵として在郷に待機しありしも、本土の兵備鞏化に伴い逐次各勤務隊現地自治要員として召集せらるるに至りたり

第十章 第二回 徴兵検査